

日本新生児成育医学会 2023年度 第4回理事会 議事録

日 時：2023年8月7日（月）18：00～21：00

形 式：Web会議システム Zoom を利用

出席者：高橋尚人（理事長）、諫山哲哉、落合正行、影山 操、河野由美、佐藤義朗、東海林宏道、長 和俊、
徳久琢也、中西秀彦、難波文彦、長谷川久弥、飛弾麻里子、廣間武彦、水野克己、森岡一朗、芳本誠司、
和田和子（各理事）

与田仁志（監事）、荒堀仁美、山田恭聖（各幹事）

欠席者：日下 隆、細野茂春（各理事）、中村友彦（監事）、北東 功（幹事）

（敬称略）

議 事：

1. 理事長報告

1) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは4件、内1件は本日の理事会で審議（第15号議案）、そのほかのお知らせなどは5件であった。

2) 2023年度会計途中経過報告の件

10～6月分までの年会費は全会員2,534名中、名誉・功労会員135名を除く2,399名のうち、延べ2,115名（88.2%）（6月30日現在）より納入され、代議員費を合わせて27,316,000円の会費納入となった。その他の費目に関しては、予算から大きく外れることなく推移している。なお、第66回学術集会の収支は未反映、次回理事会で提出する予定である。

3) 年会費未入金

2023年7月21日現在、年会費2年分未納の会員は80名であり、9月末をもって「資格喪失退会」となる。各理事においては自施設の会員がいれば声掛けをお願いしたい。

4) 非医師入会の件

臨床工学技士、看護師、医薬品開発者、生物統計家の方より入会申込があった。

5) 日本新生児看護学会より薬剤師推薦依頼の件

日本新生児看護学会より「NICUに入院している新生児の痛みのケアガイドライン」2025年改訂にあたり、医療の標準化委員会下部組織であるJEBNeoより薬剤師の推薦依頼があった。諫山理事が推挙した2名の薬剤師の推薦を行った。

6) 第127回日本小児科学会学術集会：プログラムアンケートの件

日本小児科学会より第127回日本小児科学会学術集会におけるプログラム案の募集があり、落合理事より提案があった4件を7月4日（火）に提出した。

7) 日本小児科学会移行支援委員会「自律的意思決定が困難な患者の成人移行支援のあり方を検討するワーキンググループ」へ委員推薦の件

日本小児科学会より「自律的意思決定が困難な患者の成人移行支援のあり方を検討するワーキンググループ」への委員推薦依頼があり、診療委員会内で検討した結果、和田 浩先生（医療福祉センターさくら）を推薦することとした。

8) 理事会・社員総会の開催の件

第5回理事会を10月に開催する。社員総会は学術集会初日の11月2日（木）16：30～パシフィコ横浜 会議センター 第1会場で開催する（理事・監事・幹事は事前に出欠確認をするため、受付不要）。総会において、理事長が委員会報告をまとめて行うため、各委員長は1年間の総括を提出する。

- 9) 日本小児感染症学会より先天梅毒ガイドンス作成委員推薦依頼の件
日本小児感染症学会より「先天梅毒ガイドンス作成委員」への委員推薦依頼があり、感染対策予防接種委員会の森岡一朗委員長と岩谷壮太委員を推薦した。
- 10) 理事長職務報告
通信理事会の発信、問合せ対応を行った。

2. 審議事項

- 第1号議案 2024年9月期予算および事業計画書の件（高橋理事長・和田理事）
学術集会の参加者数によって影響を受ける可能性があるが、2024年9月期予算について概ね例年通りの収支となっている。また2024年度の事業計画について説明があり、賛成1/2以上で承認可決された。
- 第2号議案 第67回学術集会会計の件（細野理事・代 高橋理事長）
学術集会の収支予算書について報告があった。学会への補助金の返金と納税を行ったうえで収支はゼロになり、予定通りの参加者が集まれば問題ないことが報告され、賛成1/2以上で承認可決された。
- 第3号議案 学術集会演題発表における会員資格の件（諫山理事）
学術集会の演題発表時、共演者も含め会員資格が必要であり、本学会の内規にも明記されている。演題発表のための入会については「単年度」の入会も選択できるようにしており、例年50名以上単年度入会をしている。
諫山理事から、本学会発表の演者として非会員を認めることの是非について提案があった。日本小児科学会では非会員の発表は認められているが、学会によって対応は様々である。現行規則の会員増員への貢献度、非会員で筆頭・共同演者になれる要件など議論し、継続審議となった。
- 第4号議案 学生の学術集会演題発表における会員資格の件（高橋理事長）
医学生（医学部学生）の学術集会参加費は無料となっている。医学生が演題発表（演題登録）する際の会員資格についても会員資格を必要としないことが賛成1/2以上で承認可決された。
佐藤理事より年会費無料の学生会員制度について提案があり、今後検討することとなった。
- 第5号議案 第70回（2026年）学術集会 会長選任の件（高橋理事長）
7月31日（月）を締切として募集していた第70回学術集会大会長に森岡理事より立候補があり、賛成1/2以上で承認可決された。
- 第6号議案 学術集会における委員会企画の位置づけの件（中西理事）
学術集会のプログラムで委員会企画が十分採択されないことがあり、委員会企画の時間枠を担保できないか中西理事より上申があった。学術集会大会長および、委員会委員長の立場から議論され、「委員会企画は優先して採用するが、最終的には学術集会大会長の判断とする」ことが賛成1/2以上で承認可決された。
- 第7号議案 学術集会企画にかかる飲食代の件（河野理事）
第67回学術集会で開催する男女共同参画推進委員会「カフェ企画」（委員5名、参加予定者30名、2時間の開催予定）において、コーヒー・お茶代を委員会活動費として学会から支出することが賛成1/2以上で承認可決された。
- 第8号議案 新生児シミュレーショントレーニング普及推進WG主催セミナー開催時の会場費負担の件
(中西理事)
新生児シミュレーションセミナー開催のための会場費を学会負担とすることが賛成1/2以上で承認可決された。
日時：2023年11月4日（土）17:00～19:00（セミナー開催時間）
場所：THE POINT エキニア横浜 セミナールーム『4L』（横浜駅直結）
テーマ：気管挿管および臍帯カテーテル留置（状況によって、病状説明もテーマとして追加する可能性あり）

第9号議案 JEBNeo 会場費負担の件（諫山理事）

第67回学術集会の翌日に、横浜でJEBNeoのガイドライン作成会議を予定している。その会場と、音響設備レンタル代を学会から支出することが賛成1/2以上で承認可決された。各ガイドラインの完成に向けての議論を行う予定である。

日時：2023年11月5日（日）終日

場所：リロの会議室 関内横浜スタジアム前 特大会議室

第10号議案 委員・オブザーバー公募の件（落合理事）

2022年度の理事候補選考後の委員選出過程において、同一候補者の選出が集中する傾向が認められた。委員の集中化は業務の多重化につながり、委員会運営の負担となる。また新規委員が参画できない状況は、学会活性化や会員増加の妨げとなっている可能性がある。そこで委員・オブザーバーを公募にすることが落合理事より提案された。

公募は全委員会対象か、それとも各委員長裁量とするのか、立候補できる資格は代議員のみか全会員か、立候補者から委員やオブザーバーを選考する方法を議論し、継続審議となった。

第11号議案 社会保険委員会の委員増員の件（佐藤理事）

祝原賢幸先生（大阪母子医療センター 新生児科）を、次の理由により社会保険委員会委員とすることが賛成1/2以上で承認可決された。

- 1) 診療報酬改定の提案などは、日本小児科学会、日本周産期・新生児医学会の社会保険委員会と密な調整が必要であり、祝原先生は3学会全てで委員であるため。
- 2) 令和6年度診療報酬改定における本学会からの提案に関して、現在も尽力いただいている。
- 3) これから行う調査に関して、中心的人物となるため。

第12号議案 日台韓 joint congress Travel Award の件（難波理事）

国際渉外委員会で選考を行い、Travel Award 対象者を以下7名とすることが賛成1/2以上で承認可決された。

- ・玉置祥子（兵庫県立こども病院新生児科）
- ・野口聡子（神奈川県立こども医療センター新生児科）
- ・池永知穂（済生会横浜市東部病院新生児科）
- ・大橋祥子（東京都立大塚病院新生児科）
- ・高久保圭二（大阪母子医療センター新生児科）
- ・中里圭貴（富山大学医学部小児科）
- ・太田幹人（京都第一赤十字病院新生児科）

従来、本 Award は前年度の学術奨励賞、論文賞受賞者に加え、学術委員会、国際渉外委員会、学会誌編集委員会の各委員長が選考した当年度の学術集会優秀演題賞受賞者を候補者としているが、第66回学術集会では優秀演題を選考していなかった。この機会に優秀演題の選考方法および、本 Award の候補者選考方法について明確化する。

第13号議案 新生児フォローアップ認定医制度規約の件（河野理事）

フォローアップ認定医制度委員会で認定医規定・細則を作成し、会員への周知方法、E-learning サイトのオープン時期、申請および認定の開始時期について報告があった。

徳久理事より、認定要件に小児科専門医のみならず産婦人科専門医を加えて欲しいと要望があった。また難波理事から、認定医の英語表記に関して再検討の要望があった。認定要件に産婦人科専門医を加える方向で、英語表記は再検討することとし、継続審議となった。

第14号議案 代議員選挙へのクォータ制導入の件（河野理事）

代議員選挙に女性議員のクォータ制を導入するにあたり、定款施行細則の変更と代議員選挙におけるクオー

タ制導入の内規を作成したことが河野理事より報告があった。

女性候補者が62名未満の場合、クォータ制を遵守すると総代議員数が減ることの是非について意見があり、継続審議となった。

第15号議案 「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応」改訂の件（森岡理事）

森岡理事より「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」を第6報として改訂したことが報告された。母子愛着の推奨度が弱いのではないかとの意見があったが、厚生労働省のガイドラインと足並みを揃えることや、感染対策の側面からこれが限界であり、まずは現状の管理の緩和を目的としていることが説明され、発出することについて賛成1/2以上で承認可決された。

第16号議案 新名誉・功労会員推戴の件（高橋理事長）

定款第14条および定款施行細則第3条より、新功労会員推戴候補者の一覧を作成した。今年度は新名誉会員の候補者はなく、新功労会員は以下3名の先生が候補である。功労会員として推戴することについて賛成1/2以上で承認可決された。

- ・小山典久先生（豊橋市こども発達センター）
- ・杉浦正俊先生（杉浦小児科）
- ・平林 円先生（四天王寺和らぎ苑）

第17号議案 学術集会における非会員への謝礼金の件（佐藤理事）

第67回学術集会における社会保険委員会と日本新生児看護学会の合同企画の中で、海外のNICUの診療報酬をテーマとして、ヴァンダービルト大学看護大学院新生児NPコースクリニカルインストラクターのエクランド源 稚子様（非会員）とシンシナティこども病院の児島克明先生（会員）を交えて、事前に座談会を行い、当日に録画動画を流すことを検討している。米国の診療報酬は大変複雑なこともあり、準備に相当な時間がかかるため、非会員であるエクランド様に学会から謝礼を払いたいと佐藤理事より要望があり、学会から謝礼金を出すことが賛成1/2以上で承認可決された。

3. 第67回学術集会（細野会長・代 高橋理事長）

2023年11月2日（木）～4日（土）、パシフィコ横浜

- ・演題募集期間を8月2日まで延長した。
- ・他学会で筆頭演者が発表できなくなった際、共同演者が代わりに発表せず、スキップすることがあった。採択通知の際にそのような場合は必ず共同演者が代理で発表することを注意書きとして入れる予定である。
- ・2020年の第3回理事会にて申し合わせがあったように理事宿泊費は自己負担でお願いしたい。

4. 第68回学術集会（中村会長）

2024年11月8日（金）～10日（日）、ホテルブエナビスタ（松本市）

日本新生児看護学会：11月9日（土）～10日（日）

5. 第69回学術集会（高橋会長）

2025年11月13日（木）～15日（土）、パシフィコ横浜

6. 各種委員会報告

1. 国際渉外委員会（難波委員長）

1) IPOKRATES JAPANについて

開催時期：2025年10月16日（木）～18日（土）の3日間

開催場所：ウェスタ川越（埼玉県川越市）または

大宮ソニックシティ（埼玉県さいたま市）

（大宮ソニックシティの場合は、2025年10月23日（木）～25日（土）の3日間）

テーマ：Prevention and Treatment of Prematurity-related Morbidities

講師（内諾済）：Phyllis A. Dennergy、Souvik Mitra、Josef Neu、Tetsuya Isayama、

Anup Katheria、Peter Dargaville、Steve Abman

初日にプレコンgresとして、新生児シミュレーショントレーニング普及推進WGにワークショップを依頼した（甘利昭一郎先生、小澤悠里先生）。

2024年1月にバリ、広州で開催されるIPOKRATESに難波委員長が参加予定である。

- 2) 日台韓 joint congress について

2023年10月28日（土）に韓国で開催される joint congress に佐藤理事を特別講演・演者として、また座長として丸山秀彦委員と難波文彦委員長を派遣予定である。
 - 3) 第67回学術集会・委員会企画としてモーニングセミナーを企画していたが、条件が合わず辞退した。
 - 4) Pediatric Academic Society Meeting 2024 シンポジウム案を会員から募集し、日本小児科学会に推薦したが採択されなかった。
2. 薬事委員会（落合委員長）
- 1) 第67回日本新生児成育医学会・学術集会で薬事委員会企画セミナーを開催する。
テーマ「新生児領域における医薬品開発と国際標準化に向けて」
 - 2) 日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼（04疑1132-36）
該当なし。
 - 3) 日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目〔機器・検査〕検討依頼（05疑2031）
該当なし。
 - 4) 学会ホームページ会員専用サイト掲載項目追加について
日本医師会が行っている「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」の募集フォームを会員専用サイトに作成した。本学会活動を含め、新生児領域で適応外薬品のエビデンス・ガイドライン発出が増加しており、適応外使用事例の募集を常時行っている。
3. 学会誌編集委員会（東海林委員長）
- 1) 6月15日（木）に日本新生児成育医学会雑誌35巻2号を発刊した。
 - 2) 継続検討事項：査読を代議員の職務として明確化すること、投稿規定の改訂（PDFとホームページ記載内容の統一、COI書類）について検討する。
4. 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）
- 1) 日本環境感染学会、日本新生児看護学会と本学会でまとめた「感染症流行時の新生児集中治療室（NICU）における家族の入室に関する提言」が理事会の承認を経て、7月6日（木）にホームページで公開された。
 - 2) 本学会から公表している「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」は、5類への変更を受け委員会で検討を続けている。まとめ次第、理事会に諮りたい。
5. 英文誌WG（森岡委員長）
- 1) 2023年7月4日（火）に英文誌WGを開催し、本学会で英文誌を作成していく方向で検討を進めることが決定した。
6. 医療安全委員会（影山委員長）
- 1) 継続審議事項：本学会員からの、FDAの「Do Not Use Infant Head Shaping Pillows to Prevent or Treat Any Medical Condition: FDA Safety Communication」に関する問い合わせ（2023年1月）について、「医療安全委員会での対応について協議し、2023年度第2回理事会で報告した結果、米国との社会事情の違い、情報量の少なさ、業界への影響の大きさなどより『継続審議』していく案件とし、今後も引き続き本学

会として注視していく」という現時点での本学会の考えを回答した。その後、業界などからの新たな動きはなさそうである。

7. 診療委員会（芳本委員長）

- 1) 重症先天性心疾患スクリーニング検査の標準プロトコル案の確認と共同提案について各団体に依頼文を送付済。回答集計中である。
- 2) 小児科学会移行支援委員会における「自立的意思決定が困難な患者の成人移行支援のあり方を検討するワーキンググループ」への委員推薦があり、和田 浩先生（医療福祉センターさくら）を推薦した。
- 3) 第2回小児慢性疾病委員会の参加報告
第2回小児慢性疾病委員会に出席した。

8. 教育委員会（中西委員長）

- 1) 日本新生児成育医学会 第4回 web セミナー プロジェクトN～周産期医療の異論 徹底討論 No.2「この症例、抜管するのは？しないの？～CLD児の呼吸管理を考える60分」を開催した（参加者：144名）。
- 2) 第9回医学生・研修医向けNICU入門セミナー（オンライン）を開催した（参加者：39名）。
- 3) 第26回教育セミナー（会場：プラザヴェルデ〈静岡県沼津市〉）を開催する。
日 時：2023年8月19日（土）～21日（月）
参加費：会員；10,000円／非会員；22,000円（初日夜～3日目昼の食事代、宿泊費込み）
現在、学会ホームページにて参加者募集中である。

9. 慢性期 iNO 保険収載 WG（中西 WG 長）

- 1) 慢性期 iNO の本邦の NICU における実態調査アンケート案の作成と実施
宮田昌史委員を主任として 1,500g 以下、日齢 7 以降の NO 使用症例についてアンケート案を作成。藤田医科大学の倫理委員会の承認済。アンケート対象施設としては、NRNJ 参加施設、新生児医療連絡会加盟施設を検討している。
- 2) 急性期以降 iNO 臨床使用に関するエビデンス抽出のためのスコーピングレビュー
加藤 晋委員を中心に、文献検索の根幹となる Patient、Concept、Context を作成し、急性期以降の論文数本を参考資料として挙げ、鈴木大地先生（神奈川工科大学公衆衛生看護学）、大田えりか先生（聖路加国際大学）協力のもと、文献検索式を作成して、一次スクリーニングを進める予定である。
プロトコル論文（筆頭著者：埼玉医科大学総合医療センター南谷曜平先生）作成に向け、UMIN 登録を行った。
- 3) 第 67 回学術集会シンポジウム 4 で「急性期以降の iNO は、児の予後改善に必要か？ iNO の適応拡大を考える」を開催する。

10. 新生児シミュレーション普及推進 WG（甘利 WG 長・代 中西理事）

- 1) WG メンバーが決定した。

WG 委員長：甘利昭一郎（東京大学大学院／国立成育医療研究センター新生児科）

WG 副委員長：小澤悠里（杏林大学小児科）

委 員：

山田洋輔（東京女子医科大学附属足立医療センター新生児科）

井上普介（九州大学病院総合周産期母子医療センター新生児内科）

玉井 圭（岡山医療センター新生児科）

岩谷壮太（兵庫県立こども病院総合周産期母子医療センター新生児内科）

金井雅代（埼玉医科大学総合医療センター小児科）

加藤有一（安城更生病院新生児科）

水本 洋（北野病院小児科）

岩見裕子（大阪市立総合医療センター新生児科）
 古都美智子（横浜労災病院看護部 NICU/GCU 師長）
 内藤喜樹（鹿児島市立病院新生児内科）
 石田宗司（北里大学病院小児科）

11. 医療の標準化委員会（諫山委員長）

- 1) 新生児医療の科学的根拠に基づく診療ガイドライン作成グループ（JEBNeo）の活動報告（2023年5月16日～8月7日）
 - 3月に作成した10個の推奨案のパブリックコメントを準備中である。
 - 完成したガイドラインは、推奨のまとめと10個のWorksheetからなる予定で、学会ホームページで公開予定である。
 - 2023年度中にCLDガイドライン、PDAガイドラインの完成を目指す。
 - 厚生労働科学研究の河野班と共同で、極早産児の長期予後に関するUmbrella reviewを行う。

12. 病気・ケアの解説作成WG（長谷部WG長・代 水野理事）

- 1) コンテンツ内容を検討中である。
 早産児、仮死、呼吸障害、心疾患、外科疾患、染色体疾患、短期・長期予後やNICUに関わる他職種の紹介、NICUで行われる検査・手技、退院後の生活について、を段階的に広げていく。各項目の執筆は若手学会員を中心にまとめ、代議員に内容確認を依頼する予定である。

13. 新生児フォローアップ認定医委員会（河野委員長）

- 1) Webおよびメールによる委員会会議で、認定医の申請、症例要約の書類ひな形と認定医規定・細則を作成した。また、E-learningの制作を決定した。
- 2) 第67回学術集会で、認定医制度に関するワークショップを開催する。

14. 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

- 1) Web会議によりクオータ制を導入した代議員選挙方法の細則と内規を検討した。
- 2) 第67回学術集会において、“女性・若手医師の学会活躍を推進するカフェ”を委員会で企画し、11月3日（金）15:00～17:00開催として学術集会大会長の承諾を得た。

15. 社会保険委員会（佐藤委員長）

- 1) 令和6年度診療報酬改定に関して、8月1日（火）に厚生労働省によるヒアリングを受けた。A項目（重症新生児対応体制強化加算、ハイリスク児成育支援料）はヒアリング対象外のため、「アルブミン非結合型ビリルビン」に関してのみ対象となった。
- 2) 第67回学術集会で、日本新生児看護学会との合同企画として、シンポジウム「NICUの診療報酬を考える—新生児医療において2:1看護体制ができるのか—」を開催する。

16. 倫理委員会（飛弾委員長）

- 1) 第67回学術集会で多職種ワークショップの準備を進めている。日本新生児看護学会と共催企画となる。

17. 学術委員会（長谷川委員長）

- 1) 2022年度日本新生児成育医学会論文賞の受賞者が決定した。
 岩谷壮太氏（兵庫県立こども病院新生児内科）
 「超早産児に対する一酸化窒素吸入療法に関する多施設共同実態調査」
 日本新生児成育医学会雑誌 34（1）：93-100；2022。
 第67回学術集会で受賞講演を行う。
- 2) 日本小児科学会分科会推薦総説の原稿を確認予定。7月25日（火）締切だったが執筆者の希望により締切を8月7日（月）に延長した。
- 3) 米国小児科学会2024年度学術集会における発表者推薦は7月21日（金）を応募締切とし、2件の応募

があった。現在、選考中である。

- 4) 若手新生児科医フェローシップの応募締切を学術集会の演題締切に合わせ、8月2日（水）に延長した。
- 5) 教育委員会と交互に開催している web セミナーは「第5回」を12月に開催予定である。

18. 総務委員会（和田委員長）

- 1) 現在個人情報保護規約を作成中である。

19. 医療の質向上委員会（長委員長）

- 1) 令和5～7年子ども家庭科学研究費 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究」（研究代表：河野由美先生）について、医療の質向上委員会のフォローアップ研究事業として支援・協力をお願いしたい。
- 2) 新規サーベイランス対象として、難波理事から「気管切開を要した新生児慢性肺疾患」の申請があった。委員会で検討して修正点について難波理事に確認中。施設の倫理審査終了後、委員会から理事会に上申する予定である。
- 3) 現在進行中のサーベイランス対象は軟骨低形成症である。

20. 利益相反委員会（廣間委員長）

特になし

21. 調査研究審査委員会（飛弾委員長）

特になし

22. 広報委員会（水野委員長）

特になし

23. 学会将来構想委員会（日下委員長）

- 1) 7月27日に委員会を開催した。

24. 産科医療補償制度委員会（細野委員長）

特になし

25. 用語委員会（細野委員長）

特になし

26. 災害対策委員会（徳久委員長）

- 1) 令和5年度 日本小児医療保健協議会（四者協）小児周産期災害医療対策委員会に参加した。

7. その他

- 次回理事会は10月上・中旬で調整予定である。
- 落合理事から理事会を対面で行いたい要望があった。総会後の学会期間中に報告事項を中心に理事会を行う意見や、周産期シンポジウムや小児科学会学会期間中に行う意見が出され、理事長に一任された。